

第5回 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議

日時

令和2年1月31日(金)14:00～16:00

場所

那須塩原市役所 303会議室(栃木県那須塩原市共墾社 108-2)

出席者

有識者委員

- 涌井 史郎 (東京都市大学特別教授)
- 小場瀬 令二 (筑波大学名誉教授)
- 山島 哲夫 (宇都宮共和大学副学長)
- 松岡 拓公雄 (亜細亜大学都市創造学部長)
- 渡辺 美知太郎 (那須塩原市長)

ファシリテーター

- 朝比奈 一郎 (那須塩原市経済活性アドバイザー)

議事

(冒頭挨拶)

片桐副市長:

只今から、第5回那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議を開催いたします。まず始めに、那須塩原市長渡辺美知太郎からご挨拶申し上げます。

渡辺市長:

皆様、本日はお忙しいところお越しいただきましてありがとうございます。いよいよ那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議も最終回となりました。市長として、那須塩原駅を那須塩原市だけのものではなく栃木県北の玄関口として捉える中で、栃木県北はそもそもどんなエリアなのかというビジョンを作り、そのビジョンに沿った玄関口を作るべきではないか、という発想から、この会議のために声をかけさせていただきました。本当に素晴らしい有識者の方々に恵まれ、第一線で活躍されている民間企業の方々からもオブザーバーとして貴重なご意見を賜りました。議論の内容としては、最初は那須塩原市内の様々な施設、これは歴史的な建築から再生エネルギーま

で視察し、栃木県北がどんなエリアであるのか、そして駅前の在り方、について議論させていただきました。

また新庁舎がどんな形であるべきか、ブリヂストン黒磯工場跡地の活用について何ができるかを議論してまいりました。本日は市役所からも幹部の方々にお集まりいただき、報道陣にも来ていただいております。今回最終回ですのでこれまでのまとめやどのような道を開くべきか、改めて議論してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

片桐副市長：

ありがとうございました。

これまで4回の有識者会議を開催し、議論を重ねていただきました。第1回では、現地視察を行い、本市の地域資源について確認をいただきました。第2回では、視察を踏まえ委員の皆様で市のポテンシャルやこれからのまちづくりについて議論を深めていただき、第3回第4回では、民間企業の方々のご参加を得て、民間から見たご意見を頂戴しながら議論を深めていただきました。今回で有識者会議も第5回を迎え、これまでの議論を踏まえて有識者会議としてのまちづくりの方向性をまとめる回としたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行につきましては、本会議の運営業務を委託しております、那須塩原市経済活性アドバイザーの朝比奈一郎様をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

朝比奈氏：

改めましてこんにちは。ファシリテーターを拝命しております経済活性アドバイザーの朝比奈でございます。那須塩原市についての会議も最終回ということで議論させていただくということになりました。本日は大きく議題が二つございまして、一つは今までご議論いただいた内容の集大成として、取りまとめの報告書について議論してまいります。事前に案としてお送りしておりますので、それについてご意見いただきながら取りまとめまいります。二つ目は、今後住民の方々を交えた、ビジョンとしての取りまとめの検討会に向けて、各地で様々な経験をされて来られた先生方からスケジュールや検討体制に関して意見をいただき議論していく、という予定になっております。

それではまずお手元の報告書案についてご説明いたします。

(以下、報告書について説明)

報告書案は先生方の今までの意見を網羅した形ですが、それらも含めて先生方から忌憚のない意見を賜りたいと思います。

(ディスカッション1:最終報告書案について)

涌井氏:

大変良くまとめていただきました。何れにしてもここで整理している話は、とにかく広域で考えること、そして戦略拠点としての那須塩原駅前をコアとして、そのツールとして一つは市役所の移転があり、もう一つは工場跡地としての機能があります。

時間軸で考えますと、現在やや矛盾していることが整理される可能性はあると思います。というのは仮に20年のスパンを考えると、「まちづくり」という言葉がここでは使われていますが、10年後に「まちのこし」に変わっているかもしれない。人口減少だけでなく、名古屋が東京の郊外になるというような、東京メガロポリスといういわばスーパーメガリジョン化によってその地域の人口集中がさらに激しくなるということを考えると、それが良いか悪いかはまた別問題とはいえ、「まちのこし」のフェーズになっているかもしれません。現実には地域の方々にはこういう危機感は伝わりづらいです。しかしそういう方向があるのだ、という未来に対する危機感を報告書に入れた方がいいかなとは思いますが。

一方で那須塩原広域にしかない資源という点についてですが、これほど品格と気品にあふれたイメージが他にあるのかというふうに思います。例えばわかりやすい例として、三浦海岸、七里ガ浜や由比ヶ浜というのがありますが、葉山だけは全然別のブランドイメージがあります。ですから品格や気品に関しては人為的にやってもダメで、重層的な積み上げがないと現れないと思います。ですから御用邸があるのは非常に大事です。それからもう一点は、イギリスでいうカントリージェントルマン(Country Gentleman)という言葉についてですが、これは決して「田舎紳士」という悪口ではなく、普段田舎に居住しながらロンドンの政財界で活動する人、そして素晴らしい屋敷をカントリーにもつライフスタイルという、品位のある暮らしぶりのことです。同時に農村風景を愛し、そこに農業開発をする、こうしたプロトタイプというのは日本では那須にしかないです。両面から考えると、このブランドをどう大事にしていくかが重要な財産だと思いますので、そうしたことを加えてはどうかと思います。

朝比奈氏:

今大きく二点ご指摘いただきました。一つは前書きを中心に危機感の部分ですが、特に先生にご意見いただいたのは、日本の構造が変わるくらいの、よりすごいレベルでの東京への一極集中が進んでいるということです。これは先日飯田市に行った時も今は東京まで5時間かかるそうですが、これがリアだと20-30分だという話を伺いました。そういう意味での「まちのこし」という話。

それから気品と品格に溢れた場所、という話がありまして、ここには二点含まれておりました。まず皇室と関連して今まで積み上げてきた部分、そしてイギリス紳士の理

想として早く引退して農村に籠って気品ある生活を送るという点で、那須塩原ならではの他にはないポテンシャルとしてお話いただきました。ありがとうございました。

それでは小場瀬先生よろしく願いいたします。

小場瀬氏：

今の話と少し似た部分もありますが、今那須塩原には何もなくて、お茶処もないというのが一般的評価です。しかし、考え方によってはカントリージェントルマンが来る場所、皇室と関係のある場所というのを考えると、今のようになんびりできたり、山が堂々とそびえる様子というのは悪くないなというふうに思っています、そうすると今は那須塩原駅から観光地に行くというのが観光イメージとしてありますが、レンタカー屋さんが残っているのも需要があるからだと思います。那須塩原の観光地は一箇所に集中するのではなく、温泉地などが広く分布しているので、車での観光に向いたリゾートだというふうに感じます。

11月に那須町の那須街道に行きましたが、日曜日は帰りがすごい大渋滞でした。那須塩原駅にもう少し渋滞した車を持って来る施策があるとか、もしくはレンタカーを借りてリゾートで遊んで帰りは電車で帰ってもらおうというのが、当面はかなり現実的だと思います。那須塩原駅の現況を否定的に見られるのはやむを得ない面もあるので、私は駅前の広場を徹底してレンタカーやバスなどとジョイントさせるというように、広場をより未来的にするといいと思います。建設省時代のプロトタイプからは離れ、21世紀的広場の再構成をするようにデザインしていく必要があるかなと思います。

もう一つは、ブリヂストンの跡地の件ですが、35ヘクタールがまとまっているというのは圧倒的な条件ですから、NTTファシリティーズに限らずここに進出したいという企業は必ずあると思います。全部スマートシティにするのもいいですが、それが作られたときは新築ですから皆魅力的に感じ人も入るものの、30年経てば一気に高齢化してしまうということが起こり得ます。ですので、なんとか企業を呼んで、一部はスマートシティ、一部は企業というふうな感じで、仕事ができる場所を併せて作るべきです。

その際に最先端の企業が来てくれれば結構ですし、農業関係もあり得るのではないかなと思っています。普通はただ土地があるから来てくれという感じでやるのですが、ここでは東京とリモートでやりたいという需要にアプローチするか、地域の農業的なパワーを使いたいという企業を引っ張るかというように、土地を街と企業のうまい組み合わせで考えるという試行を試みるのはどうかと思います。跡地の使い方についてはちょっと具体的なイメージを持って、企業との交渉をするのがいいかなと思いました。

それからP7(6)の「那須塩原市役所の新庁舎」というので、環境型オフィスは大賛成なのですが、今日私はこの役所に来て、5階に結婚相談所があるのを知りました。そこで最先端のオフィスビルで夜間に市民が相談したり、活動できる場所があるとい

いかなと思います。というのは、これからは先ほど P7 に MICE のことが書いてありましたが、人と人が交流して価値をさらに生んでいくというのが重要になります。その時に市役所の中で市民同士が色々な意味で活動したりすることに価値が出てくるだろうと思います。住民票はコンビニでも自宅でも取れる時代になりますから、市役所の機能が変わってくる、というのを考えた上で新しい市役所のあり方を考慮するのがいいだろうと思います。

朝比奈氏：

ありがとうございます。私なりに理解すると大きく4つほどお話いただきました。

まずは那須塩原駅前に賑わいを取り込むという点で、これは現実的にも一番早い部分だと思います。

2番目は広場の活用という話がありました。まさに 21 世紀的広場としてのアゴラというのがあります。最近私も広場ニストの方と話す機会が増えましたが、今までは土地活用はコンサルの方が最初に決めて、そこからどう作るかという流れでしたが、この作業がどんどんと上流に来ております。

流行りの言葉で言うと、エリアマネジメントとしてどういうステークホルダーを取り巻くかということですが、広場ニストの方によりますと、ここには元々ステークホルダー間の利害があるのだから、スケボをやりたい若者のように必ずしもステークホルダーにはならない「使い手」に注目するような、プレイスメイキングを意識した 21 世紀的広場という考え方も可能です。

また先生方に出していただいているペDESTリアンデッキの下で、見える所・見えない所の役割分担を意識した方がいいかもしれない、ということイメージいたしました。

3番目は、私の言葉で申し上げますとメタスマートシティというふうになるかと思うのですが、単なるスマートシティ、つまりエネルギー効率が良くて IT を活用する、というのではなく、農業関係や企業の部分と、いわゆるスーパーシティを組み合わせた全体感ということです。ユーカリが丘とはまた違う塩梅を考慮したメタスマートシティ的な概念を加えさせていただきたいと思います。

最後は、7 ページ目の庁舎の話ですが、市民活動拠点については多少言及しておりますが、さらに先生には管理の連携という新しい視点を賜りまして、今後行政課題を展開していく上で、行政と政治だけで解決していくのは難しい段階になると思いますので、先生の仰る通り市民と市役所で一緒に交わりながら議論して、そしてよく PPP (public-private partnership) という言葉がインフラ面で使われますが、ここでも、あるべきサービスを公正中立のもと役割分担するという意味で適用できます。今柏の葉などでアーバンデザインセンターさんが使われている「公・民・学」というようなことを意識

した市民活動拠点ということに言及すると、厚みが出るかなと思いますので、使わせていただきたいと思います。

それでは山島先生お願いいたします。

山島氏：

まずはじめに、「5. まちづくりの方向性」ということで6つ挙げられていますが、そのうち1、2、3はまさに方向性を示していて、4、5、6はそれを具体的に述べているという形になっていると思います。

私は、市役所の新庁舎の話と1、2、3の駅周辺のまちづくりの方向性の話が繋がっていないと感じます。新庁舎は駅のそばにあります。今小場瀬先生の話にあるように、市民が中心であるのならどう市役所が市民の中心になるのかという点で、色々な人の出入りがあるからイベントをやるのが可能になります。歴史を活かすのであれば、駅から来た人がすぐ市役所にいけるのですから、市の歴史を見るのにつけて場所としての市役所を作るというのは重要だと思います。景観という意味では、景観をつくることになりすから、先ほどの話の流れでは、広場から市役所までつなげるその間の景観を心地よく歩きやすい場所にすれば人は集まってくると思います。先の3つの方向性をどう市役所に活かしていくか、それは市が直接やる話ですから、夜間の話まで含めて人が集まる場所としての市役所、そしてそこまでの道のりということを描くべきだと思います。

それからもう一つ工場跡地の話ですが、これは非常に大きくて大事な土地だと思います。P6(5)の最初の「現状」は非常にわかりやすいですが、「活用方向」が3つ具体的に述べられているので、あまり具体的だとかえって議論を呼び起こしてしまうのではないかという気がします。また35ヘクタールの土地に長期的にやってくるので、住宅を入れれば人口が増えるというふうに、長期的に大事に扱って、時間が経てば活用策も変わるわけですから柔軟なあり方を示すのがいいのではないかと思います。

もう一つ(4)のテクノロジーの活用のことですが、これは涌井先生が仰ったように不断の努力が必要です。あとは誰をターゲットにするかということです。一般的な政策ではなくて、観光客なのか、インバウンドなのか、住民なのか、それを意識して書いておくと、もっとわかりやすくなります。ただ全体としては非常によくまとまっていて感心しております。以上です。

朝比奈氏：

ありがとうございます。まずは報告書案後半の記述の薄い部分のご指摘があり、私も言われてみて確かにそうだな、というふうに感じました。1～3の抽象を4～6の具体に落としているわけですから、1～3をうまく反映する形で、先生も言及いただいた夜間利用を含めた市民活用の話、そして歴史文化を感じられる場所としての機能と

いったことも言及したいと思います。また広場から市役所までの景観のところは4ページに並木道に関して少しだけ触れていますが、具体的というわけではありませんので、駅から市役所までの導線の中で景観を楽しむことが大事かなと感じました。余談ですが先日明日香村に参りましたが、村役場の屋上からの景観が一番綺麗で、いわばまさに中心の場所で、歴史・文化・景観が感じられる空間でしたので、そういうものを目指してみたいと思います。

それから(5)のところですが、具体的すぎると逆に想像力が奪われるという話でした。実は明日香村もなぜ色々なものを復元しないで古墳だけなのかということに関しても、歴史的に存在した4つの宮のどれを復元させるかで話も違うし、古代ロマンとしての想像力をあえて重視する、ということでした。少し強引な例ではありますが参考になるお話でした。それから文言として、例えば6ページ最初の「例えば」のところも、一つの例示であることを強調して長期的に35ヘクタールを考えていく必要がある、という風にしなければいけないですね。冒頭に柱について述べた上での例示、という風にしなければいけません。ご指摘ありがとうございます。

また、ブランド力を作って、住もうと考えている人が住みたくなるようなテクノロジーのお話と、涌井先生が仰ったようなバーチャルなテクノロジーに長けた人にはリアルな自然が必要だというようなターゲットの話がございました。こういった点で何を主として書くか考えて記述を変えて参りたいと思います。どうもご指摘ありがとうございます。

それでは最後松岡先生お願いいたします。

松岡氏：

これからはライフスタイルそのものが変わっていきます。身近な例では電車の中で新聞や雑誌を読む人がいなくなって皆スマホを持っています。これは本当に大きな変化で、ますますテレビや新聞を使わない若者が増えているというのは大学の現場にいてよくわかりますし、スマホを使った授業も始めないといけない状況です。

そういう中で若者をターゲットにしないといけないのですから、そういう人たちのライフスタイルはどうなっていくんだ、というのを考えているわけなんですけど、逆にある程度予測がつく範囲ではデジタルが普及する一方で取り除かれていくものを我々はつくづく感じています。それは日本そのものの良さであったり、生活の中の習慣といったところですよ。

こういったものを守っていかないといけない部分もありながら、どんどん捨てられている現状で、私がここに来たときの第一印象は自然が非常に豊かだということでした。それはアナログのものであって、デジタル化の方向に対して vs. で戦えるというのがわかりました。それを戦略的に組み立てて那須塩原から発信していくというのができるのではないかと考えています。ですからそういった視点で、涌井先生が未来に対

する危機感を述べていましたが、未来への期待感もあるでしょう。那須塩原はそれを救う起点になるのだ、というイメージを持ちました。

全体としては非常に簡潔に綺麗にまとまっている、という印象で、今やろうとしている場所が駅前と市役所、跡地、これらが一つ一つとして挙げられていますが、バラバラに考えるのではなく、これらは武器になりますから、全部一つにネットワーク化するような、つながりを持った戦略で考える必要があります。その中でライフスタイルの話やデジタルのアンタイ(anti)としての自然の話が出てくるという印象です。ですから同じテーマで何かを貫くのが欲しいと感じます。

それから駅前に関していえば、市民を中心とするのは非常に重要なことでその代表として市役所があって、牽引していかないといけない中で、市民を巻き添えにするという言い方は悪いかもしれませんが、将来連なっていくものが市民にとって愛着のあるものでなければ誰も味方してくれない、そうするためにはどうするかというのもプロセス・プロジェクトの中に必要となってきます。

それから細かいことですが、第一印象について、前回北山創造研究所の北山さんからデッキみたいなのを作ったらいいのではないか、という話が出ました。この空中広場の作り方によってはものすごく発信できるものがあると思います。そういった整理も含めて那須塩原にしかないものといえば、御用邸に行かれるときに皇族が利用される門があります。これもあまり晒されるのはよくないですから、デッキはすごくいいのではないかと思います。

報告書案のゲートウェイという言葉については、少し新鮮味が足りません。植栽を植えて屋上ガーデンをしてイベントが行われるとありますが、季節ごとのアンテナショップといったアイデアも他に考えられます。それを中心に市役所というふうな、フィジカルな繋がりが欲しいです。単に緑ではなく、それを見れば那須塩原だとわかる、そういうアイデアが散りばめられたイメージがあるといいなと思いました。

朝比奈氏：

どうもありがとうございました。整理させていただきますと、変わっていくものと変わっていかないものがある中で、先生の例では若者のライフスタイルの例で変わるべきものと残すべきもののお話がありました。

自然は当然のことながら、繋がり方こそ変われど、人のつながりそのものは時代を超えて作っていかないといけないもので、そのつながりを意識しながら駅周辺を考えると、誰が見てもつながると思える駅前から市役所、そして1kmほど離れますがブリヂストンの工場跡地、こういったものをネットワーク圏に含めて考えることが大事であるというお話でした。

その意味でゲートウェイという言葉の新鮮さについてご指摘がありまして、これに変わる言葉は今パツと思いつきませんが、少し工夫しながら外の人にも開かれた「つな

がりの結節点」を意識し、デッキに関してはかなり具体的なイメージをいただきました。これも抽象の部分を考えながらその具体例として言及できればなと思っております。

それでは市長からもご意見いただければと思います。

渡辺市長：

私からですが、まず涌井先生から危機感のお話をいただいて、私自身もすごく危機感を抱いております。国会議員時代に先生ほどではありませんが、それなりに全国各地を廻らせていただいて、東京や同じ栃木県の小山市なんかはすごく景気がいいですし、福島は国が入った復旧復興事業があり、仙台市も東北地方で景気がいいと感じます。そういった状況に比べると、栃木県北というのは取り残されているなという感じが元々していました。やはり数値にも出ていまして、昨年12月の有効求人倍率は日本全体で1.6倍くらいですが、栃木県内で1.5倍、宇都宮などの県央が1.7倍、そして県北が1.2倍です。ですから非常に危機感がありまして、確かに栃木県の県民所得は全国三位ですが、これも地場というよりかは、ものづくりに頼る部分で数字が上がっていると思うところがあります。そういった肌感覚での県民所得がどれほどかというのは決して楽観できる部分ではありませんし、ましてや県北は栃木県の中でも取り残されつつある地域だという危機感があります。

多分那須塩原はギリギリのところにあります。人口は微減であるもののほぼ横ばいですから、今がまさに変えないといけない時期だと思っています。今若干余力がある中でどういった選択をすべきか、それこそ涌井先生が仰っていた「まちのこし」というか、県北の人口が外に流れないためには那須塩原がしっかりしないとイケません。

私が就任してから、まちなか交流センター「くるる」を作るという話がありまして、もともと前の前の市長の時に発想されたものでしたが、色々ありまして工期が遅れたりしていました。これは案外作ってみると悪くないなと思ひまして、去年もオーストリアとの交流として大きなイベントをやって、それから小さいイベントもたくさんやりました。例えば「人生半分式」という50歳の方々が集まって祝う会を行いました。最近ではベトナムや台湾と交渉しておりますが、オーストリアフェスタのような海外を身近に感じられる、そして市民の方々が集まるというようなスペースがあってもいいな、という風に感じています。

それから私は那須を体験できるゾーンがあったらいいなと思っており、駅にそういうスペースを作れたらと考えています。ブリヂストン跡地にも先生方にたくさんアドバイスいただきまして大変心強いです。冒頭の挨拶で申し上げようかと思っていたのですが、先日那須町長と大田原市長をお招きし、跡地を一望できる高台に上がって景色を見ていただきました。そこでは那須塩原はやはり栃木県北にとって重要な拠点であるということ、那須地域の首長と改めて共有することができました。

今観光のマスタープランを作っておきまして、マスタープラン作成委員会の座長が流通科学大学の柏木先生でして、外部の観光が専門の先生に苦勞をかけながら作っていただいています。先生からいただいたコンセプトとしては、まずは観光の中で食と農業を身近に感じられるようにすることで、ここでいう農業というのは伝統というよりかは、よりネイチャー的な要素のことだと思っておりますが、実は那須塩原の農家は、まさにカントリージェントルマンのような方が開墾してできたものですので、その上に成り立っているのが那須塩原の食や文化だと思っております。まちづくりから観光まで市の全ての施策に同じ理念を通していきたいと思っております。

朝比奈氏：

ありがとうございました。ということで先生方から貴重なアドバイスをいただき市長にもコメントいただきました。そこでこれからの進め方なのですが、今のご意見を反映させていただいたものを事務的に送りさせていただき最終確認いただき取りまとめていくということでよろしゅうございますか？

(一同賛同)

はい、それでは全員ご賛同いただいたということで、そういう形で最後に調整して最終版を作りたいと思います。

小場瀬氏：

少し追加でコメントいたします。駅前の広場の話でレンタカーの話を示しましたけれど、私も飛行機や新幹線で何処かへ行ってそこでレンタカーを使うということはあるのですが、例えば那須塩原は東京から1時間できて、そこからレンタカーをスタートさせるまでに免許証のコピーなどでだいたい30分くらいかかるのが不都合な点です。これからは顔認証などもできるのだから、これらを駆使して那須塩原駅で電車を降りたら、その先にレンタカーがドアを開けて待っている、というのが然るべきあり方かなと思えました。これから自動運転の話もあってその程度はわかりませんが、少なくともレンタカー屋に行かずともレンタカーが待っているのはかなり理想的です。東京ではアプリで呼べばタクシーが来る時代が来ていますから、それとのギャップをなくす意味で、未来的な広場というのはいろいろなイメージがあるかと思いますが、まず機能としてはスマートであってほしいというのが一つ追加したいことでした。

もう一つ、那須街道の話がありましたが、駐車場の取り方についてです。那須塩原駅周辺は景観のコントロールも厳しく非常に良いのですが、駐車場の取り方にどの程度指導があるのかわかりませんが、その取り方が非常にうまいロードサイドショップは魅力的だし、高さや色の制限のみならず駐車場の設計の仕方に関してもう少しコン

トロールした方がいいかなと思います。その時に商業者からいうと、うちはこんなに広く駐車場をとって何台でも気楽に止められますよ、というのが基本的な考え方で、それは認められるべきものですが、チーズガーデンのように駐車場大中小のように分けてただ広いというのではなく、最初道路から見た時に小規模で洒落た駐車場で、そこが満車であれば裏の広い駐車場へというような、カントリージェントルマンにぴったりの駐車場というような工夫が必要であるように思います。

いい駐車場やいい街灯の作り方をしたところには景観のコントロールを緩めるといような権限を市長に与えて、そこから諮問委員会にかけるといふうにしながら全体的なコントロールする方法もあります。あまり硬い規制ばかりでは進出する企業が少ないということもありますから、カントリージェントリというのは非常にいい言葉だと思うし、他の市では使えない言葉でもありますから、カントリージェントルマンの街という風にして行くのはいいアイデアだなと思います。

先ほどレンタカーの話もしましたように新しい広場のあり方を考えていただければなと思います。

涌井氏：

最後の委員会ということで申し上げたいのですが、今ある提案を時間軸の上に並べてみる必要があるかなと思います。それから空間軸でもそうです。仮に時間軸を設計すると、いくつかフェーズがあって、太陽光とスマートシティとの関係、駅前整備と市役所整備の関係、それらを時間軸の上におくと矛盾してしまうかもしれません。

仮に太陽光を是認して2025年から稼働すると、10年間たった2035年にはパネルをリノベーションせざるを得ないです。そこで2035年頃に計画を見直すこととなります。一方スマートシティ構想がどういう時間軸かという、どういう事業構想で、どういう補助金を使いながら、どういう企業を誘致するのか、という構想の段階で3、4年かかります。そして整備計画でまた5年くらいかかり、いよいよ実現していこうとすると追加で3年くらいかかります。そうすると太陽光の議論とスマートシティの議論が噛み合うかが問題になります。

ですから太陽光の事業者と市の間で、包括協定を組んで土地利用の変化の認識を共有するやり方がないのかなと思います。そこで新しい市庁舎がどのように整備されて行くか、私は勝手に2022～2025年の間にできるのかなと思っていますが、そうすると大体の見通しが立ってくるので、駅前の性格がわかって来ます。その結果自ずと駅舎の性格が見えてきて、その空間計画に着手できて、結局長期的な部分と短期的な部分が一緒に時間軸に乗るなと思っています。

それから私が那須塩原に感じる問題としては、駅前には何もない一方で、山の方面に行くくと徐々に店が増えてきて最終的に別荘地にたどり着くという風に、なんとなく締めまりがないのです。これをしっかり整備する必要があるのかなと思っています、つまり

駅前が活性化していれば、駅前にあった方がいいのではないかと店もあります。逆に今の地域じゃないと成り立たないという店、例えば結婚式場などはそのままにしておく、そういう風に散らかし放題のような土地利用をしっかりとメリハリをつけた分布にしないといけないと感じます。

それでご提案ですが、いまの空間軸の話で、駅前から 100m, 500m, 1km, 5km の圏域ごとに整備計画を立てておくと、いまみたいな議論も非常にわかりやすくなるのではないかと思います。つまり時間軸と空間軸(圏域軸)の両輪で考えるとわかりやすくなると思います。

渡辺市長:

先ほど小場瀬先生の話ですが、私も面白いと思っていて、大きな話では特区的な話や、スーパーシティ的な話があり、例えば隣の那須町では相乗りサービスの実証実験を行っています。他にも、新幹線の中にいる時間を使ってレンタカーを借りられる手続きができるようにしておくともできると思います。スマートシティというのは市民に対する部分が大きいのですが、わりと観光的な部分、対外的な部分も提案できればいいなと思いました。

それから涌井先生が仰ったことですが、時間がもう決まっている案件もいくつかあって、市庁舎の計画はあまり変えられない部分もあると思いますし、太陽光もそう遠くないうちにできると思いますから、そう言った制約条件、逆にいえば制御因子を意識して時間軸を組み立てたいなと思います。

涌井氏:

私と違って渡辺市長は若いですから、将来を見据えた時間の管理がしっかりできるという意味で、渡辺市長じゃないとこう言ったことはできないです。この年齢で立てたプランというのはしっかり継承されていきますから、若い首長の良さでもあります。

朝比奈氏:

ありがとうございます。まさに渡辺市長ならではの報告書になっていくと思います。時間軸・空間軸のもとに雄大に構えたマスタープランを考えていくことができます。MaaSに関連して5ページ目のところに書いてありますが、レンタカーは今後淘汰されて行くかもしれません。この前ベトナムに行きましたがやはりみんな GRAB(Grab: タクシー配車アプリ)を使っています。諸外国の方が日本に来て UBER(ウーバー: 配車アプリ)も GRAB も使えないというのは相当ストレスだと思います。ただこの点に関しても若い市長ゆえに究極的に考えられることは一つの鍵だと思いますので、この辺りを少し重厚に書かせていただきたいと思います。

それでは最初の議論はここまでにしたいと思います。今まで本当にありがとうございました。

続きまして、今日の2番目の議題の方になりますが、市民を交えた検討会において、どのような観点からどんなメンバーでどんな検討を進めたらいいかということで先生からご意見いただきたいのですが、その前に事務局の方から検討スキームを作っていた背景をご説明いただきたいと思います。

(ディスカッション2:まちづくりビジョンの検討体制等について)

事務局:

時間の関係もありますので、簡単に説明させていただきます。

(以下、「まちづくりビジョン検討体制資料」の説明)

事務局といたしましては検討を進めて行く上で、よりアイデアが出るようなメンバー構成であったり、よりスムーズに進めるための検討の手法といった点でお聞かせ頂ければと思います。以上となります。

朝比奈氏:

ありがとうございます。まず大前提ですが、まちづくりビジョン検討ということですが、この有識者会議は那須塩原駅周辺に特化した議論をしてまいりましたが、そういう認識でよろしいでしょうか？

事務局:

はい、大丈夫です。

朝比奈氏:

わかりました。それでは今度は松岡先生からコメントをお願いいたします。

松岡氏:

スケジュールは問題ないと思います。体制の方も市民懇談会を有識者会議がアシストしたり、ワークショップを行うということですが、ワークショップに関して今までいくつかの自治体では、自分が大学に所属していたこともあってファシリテーターの役割を学生に頼んだこともありました。グループでテーブルをセッティングして最後にそれを集約して発表するなどやり方は色々あると思いますが、ファシリテーターはコンサルの方がやるにせよ、いた方がいいと思います。大勢でやると反対の人が1人いて議論が20分、30分止まってしまうということもありますから、そういった議論を丸く収め

るためのファシリテーターは重要です。それをどうやって選ぶか、そして大勢ではなく小分けにしてワークショップを行うなどして、意見の対立に関して少し考えながらワークショップは進められるのがいいかと思います。

朝比奈氏：

ありがとうございます。今ファシリテーターの決め方、グループの分け方についてお話がありましたが、もう事務局の方で決まっていることなどありますか。

事務局：

いえ、まだ具体的に決まっておられません。

渡辺市長：

やると決めている訳ではありませんが、私は無作為抽出に少し関心があります。いろいろな自治体が様々なやり方をされているのだとは思いますが、あまりこういう会に来たことがない人に来ていただきたいと考えていまして、そういう意味でこの点に関して先生方のご意見を伺いたいです。

涌井氏：

私はこういう懇談会は型にはまりやすいと思いますし、ゲマインシャフトが強く働くような地縁結合型社会であればなおさらです。つまり A さんがいると言にくいよなというような、予定調和型になる可能性があります。

最近流行っております、ワールドカフェ方式でやるというのがありますが、これはファシリテーターが非常に重要になります。この方式では無作為抽出であってもなくてもどちらでも良いのですが、これまで最大で 300 人呼んだ事があります。しかし結論は 6 時間で出ました。全員が参加していますので結果に皆納得しているわけです。小さなテーブルを沢山作って、それをファシリテーターがどんどん絞りまとめていく中で全体の総意となっていく。最終的には代表者を 10 人程度に絞り込んでいきます。そこで大事なことは参加していただいた方にしっかりフィードバックすることで、それができてこそ全員参加型にすることが出来ます。

渡辺市長：

那須塩原だとそれくらいの規模の会場の確保は難しいですが、別の会場で同時進行にやることはできますか。

涌井氏：

そうするとファシリテーターの目が届かなくなってしまう。職員の方は単純労働をするだけでよい方で、その分ファシリテーターは走り回らないといけないので大変です。

渡辺市長：

300人だと色々な人も含めることができて良さそうです。

涌井氏：

この懇談会だとテーマが多すぎるので、このままでは議論できませんから、例えば「観光・歴史・文化」をくっつけるなどすることは必要です。

山島氏：

これですと「庁舎」は議論することはできますが、他のテーマは議論が難しそうですね。

涌井氏：

ですから「庁舎」と「駅前整備」を一体化させて、あとはテクノロジーや農業までを含めた「未来の産業構造」の話、「自然と歴史」という感じで議論するのが良いかもしれません。4つくらいだと皆さんわかりやすいですね。ワールドカフェの冒頭で、どれに関心がありますか、という形でテーブルに座るというのもあります。

朝比奈氏：

私も以前、チーム那須の皆さんに集まって議論させていただいたときに、熟議方式がいいか、ワールドカフェ方式がいいかという議論方式のほかに、テーマ選びからやっていたいただきました。その際は震災直後ということもあって「観光と環境」「交通」といったテーマが多く出ました。一つのあり方として自主的に考えていただくというのもあります。

涌井氏：

それからもう一つの提案として、それぞれのテーブルに市の職員の方々に入っていていただいて差し支えないと思います。出題をやる人とは別に、長期の政策で考えを持っている若い職員を参加者として入れるのは有効かもしれません。

小場瀬氏氏：

職員の方は見ているだけではなく、実際に議論に参加したほうがいいですね。

山島氏：

まず市民懇談会全体ですが、メンバーはまちづくりのビジョンためには市民団体代表の参加がなければできないと思います。ただ会議をやるとき、総合計画を作るときもそうですが、小さなグループを作ってまとめるのが必要です。そのテーマはあらかじめ決めてしまって、それを公募の時に選択してもらうべきです。ワークショップではどんな意見が出てもいいのですが、市民懇談会でそもそも論のような形で議論が行われると困るので、そこをしっかりと分けることと、それを踏まえた形でやるとうまくまとまると思います。

懇談会の中でテーマを決めて、それをワークショップに流して絞っていく、最終的なまとめは再び懇談会でまとめる必要があると思います。

朝比奈氏：

今、懇談会とワークショップの役割分担の話が出ましたが、最後小場瀬先生どうでしょうか。

小場瀬氏：

まずこのビジョンを作るのに何を獲得したいのかを考えないといけません。先ほどの、市民と役所がパートナーとなってやる、という議論を考えると、ファシリテーションの仕方によっては、市民の要望をただ聞くだけのワークショップになってしまうこともしばしばあります。しかしそれでは獲得するものが少ないので、市民の方にも役所と組んで何ができそうかを検討してもらいたいです。

その場合に集まる人が100人、300人、はたまた10000人がいいのかという話になります。10000人は実際にオーストラリアの自治体がホテルを使って行った話です。

インターネットの時代に入りましたので、全員が同じ空間にいる必要はなく、テレビ会議などそういうプランも含めて、大規模レベルでやると話題性があるなというふうにも思います。今のプランでもいいですが少し平凡ですのでせっかくやるのであれば、他の自治体ではまだ試みていないことをやるのもいいのではないかと思います。

議論というものは、結局前向きな人の意見に淘汰されていくものだと思いますので、あまり心配していませんが、各団体の代表者の他に何人でも来てくださいというやり方は少し検討が必要です。松岡先生が仰るように、ファシリテーションのところで外からの学生さんに多く参加してもらうのはありかなと思います。役所の中で十分ご検討いただければと思います。

朝比奈氏：

あと5分となりましたが、今いただいた意見も事務局の方々に参考にさせていただいて検討していただければと思います。今日は二つの議題を行いまして、報告書の方

は大変貴重な意見をいただきましたので、それをもとに最終的に作らせていただきたいと思ひますし、まちづくりの検討体制に関しては市役所の方にお持ち帰りいただき進めていただければと思ひます。それでは私からの進行は以上にさせていただきます、事務局の方にお返しいたします。

片桐副市長：

ありがとうございました。ここで有識者会議の閉会にあたりまして市長からご挨拶申し上げます。

渡辺市長：

5回にわたって非常に内容の濃い議論ができました。この会議は毎回「広報なすしおばら」にダイジェストを載せているのですが、本当に雑誌の一場面かというくらいのメンバーが那須塩原駅について語っていただいているということで、本当に素晴らしい議論ができたと思ひます。会議のたびに様々な流行語が誕生し、今回はカントリージェントルマンということで楽しく会議ができたと思ひます。

動画でも配信して、ホームページでも情報公開しておりますし、これから始める検討会もできるだけ多くの市民に参加してほしいのですが、大変スピード感のある議論ですのである意味で市民の方が置いていかれないようにしないとけないと思ひます。仮に無作為抽出で断られてでも接触回数を増やしたいと思ひます。これから20年、30年後を見据えた責任ある街づくりをしたいと思ひます。

今回朝比奈様には素晴らしいファシリテーターをしていただき、有識者の先生方、涌井先生、山島先生、小場瀬先生、松岡先生にも那須塩原駅について語っていただき、今回いただいたご意見をしっかりと市民の方との議論の中に持ち込み、未来永劫の那須塩原の発展に活かしていきたいと思ひます。

以上をもちましてまちづくりビジョン有識者会議を閉会させていただきますと思ひます。先生方、皆様方本当にありがとうございます。そしておそらくご視聴されている皆様も最後までご視聴いただきまして心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

片桐副市長：

ありがとうございました。以上をもちまして閉会とさせていただきます。委員の皆様には引き続きお力をお貸しいただきたいと思ひしておりますので、よろしく願ひいたします。ありがとうございました。